

(2)

調書

戦争卜人

I-0884

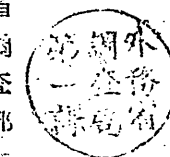
0:22

調六調書第二五號
昭和十七年十月

史料

戦争ト黒人

『日米開戦以後ノ黒人ノ動向及ソノ背景』



外務省調査部第六課

M	2	3
710878		
22 4 8		

01

序

米國ニ於ケル黒人ノ政治軍事經濟文化ニ於テ占ムル地位ハ作爲的
不作爲的ニ過小ニ評價セラレ居ル處支那事變以來在留育總領事館
其他ヲシテ黒人工作ヲ施策セシメ居タル經驗ニ鑑ミ今次大戰下ニ
於ケル黒人ノ動向ヲ明ニシ置クヲ要アリト認メ紐育總領事館ニ於
テ主トシテ本件工作ヲ擔當セル足田囑託ヲシテ戦後ノ黒人ノ動向
ヲ概述セシメ執務ノ參考トス

昭和十七年十月

調査部第六課

I-0884

0:23

戦争と黒人

一、緒論

内容

黒人ノ人口一

経済的地位一五

職業一六

都市ノ黒人一〇

急進化スル黒人一四

政治力一七

南北ノ對立ト黒人一四

教育
養一七
教育ト職業一一
「ランシング・グレイ」二〇

二、黒人ノ對日本關心

日露戦争一六

滿洲事變一八九

支那事變一三一

三、日米開戦ト黒人

黒人ノ要求一三八

黒人ノ日本認識一四四

黒人ノ言論一四八

印度ト黒人一六一

前大戦當時ト比較一六四

日系市民ト黒人一七〇

政府ノ對策一七三

黒人ヲ支持スル白人一七七

四、結論 一八八―一二七

添附参考文献

本文参照

一、黒人ノ人口（一九四〇年國勢調査、各州別）

一

二、黒人ト白人トノ教育費比較（南部、一九四一年）

一二二

三、黒人ニ關スル大統領ノ聲明

二六

四、黒人ノ戦争目的「シンボル」

四三

五、黒人ヲ目標トスル日、獨逸（「デマ」）

八六

六、加徳力雜誌ノ黒人ニ關スル論説

八六

戦争と黒人

一、緒言

黒人ノ人口

合衆國黒人ノ實數ハ千六七百萬ト視ルノカ妥當テアルト思ハレル。
(附屬第一號参照)一九四〇年國勢調査各州別黒人人口(昭和十七
年二月發表)計ハ千二百八十六萬五千八百十八名トナツテキルカ、
元來米國ニハ日本ノ如ク戸籍帳カ完備シテキル譯ナク(註)、
又國勢調査ノ方法モ極メテ不完全テアツテ、俄仕込ノ調査員ヲ戸別
訪問セシメ彼等ノ記錄セル登錄人數ニ對シ割増費與ヲ支拂フ制度ナ
ルタメ自然登錄洩レモ枉當多數アル。次ニハ白人ノ對黒人ノ心カ
舊時代ニ到達シタ現在ノ一特徵トシテ、南部テハ黒人ノ實數ヲ公表
セヌ傾向カアリ、是ト反對ニ北部ニ於テハ黒人自ラカ實數ヲ隱蔽ス
ル傾向カアル。斯クノ如キ事情カ黒人ノ實數ヲ知り能ハサル主ナ原
因テアル。

「註」昭和十七年五月三十一日ノ紐育「タイムズ」紙所報

「紐育州ノ人口約一割四分、即チ百八十七萬人(内、女九十六萬、
男九十一萬)ハ出生證明不可能テアル、而モ紐育州ハ他ノ州ニ比シ
成績良好ノ方テアツテ、「イリノイ」州ニハ三百八十八萬、「ペン
シルヴァニア」州ニハ三百八十五萬、「テキサス」州ニハ三百四十
六萬人ノ出生證明不可能者カアル」

黒人千六七百萬人中約七割ハ南部十一州即チ南北戦争當時ニ於ケル
奴隸州ニ居住シ、残りノ三割カ主トシテ南北接續地帯テアル「ワシ
ントン」主府、「メリーランド」「デラウエア」「ニュージャージー
」「ニューヨーク」「コネクチカッツ」「オハヨ」「ミ
シガン」「イリノイ」「インディアナ」「ウギスコンシン」、
「ミネソタ」「カンサス」「ミゾオリ」「ケンタツキー」、
「オクラホマ」「カリフォルニア」諸州ニ分散シ、ソノ他ノ北部
諸州ニモ少數ノ黒人カ住ムテキル。現在黒人間題ノ核心トモイフヘキ

モノハ、寧ロ多數ノ黑人ノ住居スル南部ニ非スシテ、前記ノ南北接
續地帯及北部ノ黑人層ヲ基礎トシテ擡頭シツツアル。此ノ點カ現在
ノ黑人問題ヲ知ル上ニ最も大切ナ視點テアル。
「アングロ・サクソン・イデオロギー」ニ依レハ、タトヒ一箇ノ黒
人ノ血液カ混ツテモ、ソノ人間ハ凡テ黑人トシテ取扱ハレ、是
レニ反シ「ラテン」系諸國テハ白人ト白人トノ間ニ生レタ混血兒ハ
白人トシテ取扱ハレル。茲ニ「ブラジル」ヲ觀メ、中南米諸國ニ於
ケル黑人問題ト北米合衆國ニ於ケル黑人問題トハ根本的ニ立場カ
相違シテキル。衆言スレハ、中南米諸國ニ於テハ當然白人並ニ見做
サルヘキ人々カ、北米合衆國テハ、ソレ等ノ人々ノ社會的地位、學
識ノ如何ニ不拘黑人トシテ差別待遇ヲ受ケテキル混血兒カ多數アル。
最近ニ至ツテ米國黑人問題ヲ Brown America ト呼フ學者スラアル位
テ黑人ハ全體的ニ漸次薄色ニ化シツツアル。現在テハ黑人總人口ノ
七割乃至七割五分ハ混血兒デアリ、更ニ混血兒ノミノ總數ヲ分別ス

レハンノ半數以上ニハ白人ノ血液カ黑人ノヨリモ多數ニ含マレテ居
リ、勿論中ミハ一見全ク白人ト識別困難ナ黑人モアル。此ノ種ノ黒
人ニシテ白人ニ轉化 (Pass) スル者ノ數ハ毎年二萬乃至三萬ト謂
ハレテキル。
米國黑人中十四五萬ノ外國系黑人カアル。彼等ハ主トシテ西印度洋
ヨリ移住セルモノニシテ英國系テアル。此ノ外ニ「ハイチ」共和國
ノ如ク諸國系ノモノ及ビ「ドミニカン」共和國ノ如ク「スペイン」
系ノモノモアル。更ニ「ポルトリコ」及「ヴァージン」島ノ如ク最
近米領トナツタ地方カラノ移住者モアル。外國系黑人ハソノ數ニ於
テハ實カニ米國黑人ノ百分ノ一ニモ達シナイニモ拘ハラズ、彼等ノ
社會的地位ニ對シテ程度ハ比較的優位テアル。現在新進ノ黑人指導
者トシテ全國ニ亘リ多數ノ黑人識者ノ信任ヲ得テ「ルーズベルト」
大統領ニ對シテ當時黑人差別待遇改善ヲ期スルタメ、億萬人ノ黒
人代表者ヲ聯邦ニ呈メ大示威運動ヲ試ミント計畫シタ(此ノ經過ニ

此テハ後ニ詳記ス。A、「フキリツブ・ランドロフ」氏及米國社會
黨黑人部主幹「フランク・クロスウエイト」氏、合衆國生活安定局
黑人部主任「アイラ・デー・リード」氏及社會市黑人判事（註）ノ
一人「トーマス・ワトソン」氏ナト何レモ英領系黑人テアル。又紐
西市黑人區高級住宅經營者トシテ成功セル「オーガスタ・オス
ナン」氏、黑人詩人中「The Negro Muse, Diller」ノ作者トシテ世界中ニ知レテ
ナル「クロード・マツケー」氏及「アフリカ」人ノ「アフリカ」ヲ
戯色トシテ衆人大衆ヲ起シ一夫大戦後ノ米國ヲ恐怖セシメ、
二十世紀ニ於ケル黑人間ノ特徵ヲ鮮明ナラシメタ「マーカス・カ
ーバー」氏等皆英國系黑人テアル。
「註」現存紐西市ニハ數名ノ黑人判事カアリ、勿論彼等ハ黑人ト白
人トノ區別ナク凡テ管轄内ノ裁判事件ヲ取扱ツテアル。

經濟的地位

黑人ノ經濟的地位ハ今尙非常ニ低イ。舊算二十五億弗ノ資産ト二千
萬「エーカー」ノ土地ヲ有シ、商業方面テハ保險會社ノ經營方主ナ
モノテ、四十餘社中半數位カ年額千五百萬弗位ノ保險ヲ取扱ツテ中
ル程度テアル。近テハ化粧品、「ビューティーパーラー」ソノ他各
種ノ小賣業者ナトカ出シツツアルカ、何レモ小規模テアル。黑人
柜手ノ商業ハ殆ト凡テカ白人、主トシテ猶太人ニ依テ行ハレテアル。
カ、ソノ中ニ一ツ丈ケ猶太人スラモ手ヲ出サヌモノカアル。ソノ
黑人ノ保險會社テアル。黑人保險會社ハ元來黑人ノ葬式無事ヲ發
達シタモノテアル。現存ニ於テ「アムエル」追善ト「追ト」不
テ生活スル黑人カ、セメテ「ヨルダジ」ノ後方ニ門出セケルモ
シナラシメントスル。要カ無事ノ葬式トナリ、近ニハ近代式保險
會社ニマテ前進シタ。黑人保險會社ノ發達ニハ二ツノ大ナ
ル原因カアル。一ツハ近年ニ至ツテ一流ノ米國保險會社ガ黑人保險
ヲ取扱フコトヲ望ケルニ至ツタコトデアリ、ソノ二ハ黑人大衆カ黒

人保險會社ヲ信用スルニ至ツタ事アル。黑人保險會社中モ有力ナルモノハ「ノースカロライナ」相互保險會社ナル。一「タラム」市ニ本座ヲ有シ、主として黑人住區ニ支店ヲ有ツテキル。最近ニ至ツテ此ノ會社ニ南部ノミナラス北部ノ黑人住居都市ニマテモ支店ヲ設ケツツアル。一九三三年ノ銀行閉鎖令「タラム」市ノ全部ノ銀行閉鎖ノ際ハ、此ノ會社ニ信用アル會社アル。此ノ會社長「O O スポルデン」氏ハ數年前同市ニ「カレタ」銀行業者大會ノ出席者全部ヲ招キ同地ニ流シ「ホテル」テ晩會ヲ催シタルハ、招待者タルハ黑人ナルカ故ニ列席シ能ハス、補佐役ノ白人ヲ代理トシテ主人役ヲ務メサセタ。

黑人ノ教育

奴隸解放五年後一八七〇年ニハ黑人テ讀ミ書キノ出來タモノハ僅カニ人口ノ一割位デアツタノカ、現在テハ九割近クノ黑人ハ讀ミ書キノ出來ルマテニ進ンテ來タ。從ツテ一般ノ教育モ高マリ、黑人數關

八萬人、大學生四萬人、藝術家二萬人、音樂家數萬、醫師五千人、辯論士二千五百人等カ居リ、大學生中ニハ白人大學ヲ學ブ黑人モ多數アル。(紐育州立大學ノ六百八十一人、コロンビア大學ノ二百五十八名ヲ數ルニ、シカゴ・オハヨ州立等ニモ

職業

凡二百三十有餘種類ニ區別セラレテキル米國職業中一人ノ黑人ヲ列シナイモノハ僅カニ三十餘種ニ過キナイトイフ事カ最近發表サレタ黑人カ如何ニ米國ノ全社會層ノ浸入シツツアルカヲ示スモノテアル、米國鐵工業ノ中極トモ言ハレル「ピッツバーグ」市デハ約四分ノ一ニ黑人職工労働者カアリ、「デトロイト」市ノ「フォード」自動車工場ニモ一九四一年ノ終リ頃ニハ約三分ノ一ノ黑人カ働イテ非ダ、東部ニ於ケル造船及建艦所トシテ有名ナ「ノーフォーク」「ニューボルト・ニュース」及皆府ニモ多數ノ黑人熟練工及半熟練工カ從事シテ居リ、勿論雜役人夫等ハ多ク黑人テアル、全國工場ノ約七分ノ一ノ使用人ハ黑人テアリ、炭礦及鐵礦場等テハ百七十萬ノ黑人カ居ルト言ハレテキル。一九一〇年ニハ僅カ三千七百名テアツタ黑人機械工ノ數ハ一九三〇年ニハ約十倍ニ増加シテキル。現在テハ全黑人凡六割半カ農業及家庭労働者テアリ、殘餘ノ三割半ハ商工業主トシテ

工業ニ從事シテキル、二十年前ニ於テハ僅カニ黑人ノ一割位カ工商業ニ從事シテキタ、此ノ黑人ノ職業ニ從ヒ黑人モ他ノ米國白人ト等シク最近テハ都市ニ住ム者ノ數カ著シク増加シテ來タ、此ノ傾向ハ南部北部共通テアルカ、特ニ北部ノ諸都市ニ於テ黑人ノ人口カ増加シツツアル。此ノ故ニ現在テハ米國黑人問題ノ中心カ北部ノ産業都市ヲ繞ル労働及政治糾ニ社會問題トシテ重視セラルニ至ツタ。

都市ノ黑人

世界的ニ有名ナ經育市黑人區「ハーレム」ノ人口ハ現在テハ約五十萬ト稱セラレテキルカ、一九二〇年頃ハ十萬内外テアツタ。「ハーレム」ニ次キ「シカゴ」ノ四十一萬「フキラデルファイヤ」ノ三十五萬、「デトロイト」ノ十五萬、主府「ウシントン」ノ二十萬等ヲ筆頭ニ各州ノ重要都市ニ益々黑人ノ人口カ増加シツツアル、都市黑人ノ就職及救済問題ニ盡シツツアル黑人都市聯盟ハ全國凡ソ五十個所ノ都市ニ支部ヲ設ケテキル、是等北部ノ黑人ハ二十世紀ノ初期カラ

米國ノ産業發達ニ伴フテ起リ、勞働力不足ノ需要ヲ充タスル爲メ南部ノ農園地帯カラ漸次北部ヘ移動シタコトニ初マリ、次ニハ北部定住者ノ繁殖トナリ、更ニ最近ニ至ツテハ中央政府事業ノ恩恵ヲ求メテ南部ノ黑人北部ニ集合スルニ至ツタノテアル、北部黑人ハ主トシテ工場及家庭労働者カ多數ヲ占メシテキルコトハ勿論テアル、現在ノ黑人問題ヲ考察スル上ニ特ニ注意ヲ要スル點カ三ツアルト思フ、ソノ一ハ南部黑人ニ比シ比較的知識階級ニ屬スル黑人例ヘハ醫師、辯護士、官公吏等カ北部ニ多イコトテアリ、第二ハ黑人青年層ノ覺醒テアリ、第三ハ住居、衛生狀態ノ不備及犯罪率ノ増加、又ソノ原因トモ見ラルヘキ失業者カ多數ニアルトイフコトテアル、「ハイレム」ノ如キハ黑人人口ノ六割迄ハ同等カノ形ニ於テ直接或ハ間接ニ中央政府或ハ州又ハ市ノ救済資金及事業ノ恩恵ヲ受ケツツアル有様テアル。

教育ト就職

凡テカ人種差別級ヒノ傳統ト政策トテ一貫シテキル南部テハ黑人教育モ白人教育ニ比スレハ非常ニ劣ツテキル、而モ南部ノ白人教育ソノモノスラモ北部ヨリハ遙カニ低位ニアル、米國ノ普通教育費ノ全國的平均ハ凡ソ一兒童當リ八十五弗テアルカ南部十一州ノ白人兒童教育費ノ平均ハ凡ツ四十三弗テアリ、又此ノ地方ニ於テ黑人ノタメニ費サレツツアル教育費ハ黑人兒童一人當リ十弗弱テアル、最も甚タシイ例ヲ示セハ「カリフォルニア」州テハ學童一人ニツギ百貳拾弗以上ヲ費シ、紐育ニ於テモ百拾弗餘ヲ費シツツアル一方、「ミシシッピ」州カ黑人兒童一人ニ費ス教育費ハ驚ク勿レ四弗九拾七仙トイフ少額テアル、(附屬第二號參照)

右ノ如キ狀態テアルカラ單ニ漠然トシタ黑人對白人ノ智能比較ナトトイフコトハ全ク無意味テアル。

北部ニ於テハ南部ト異リ兒童教育ニ關スル限り殆ト白人同様ノ機會ト待遇トカ與ヘラレテキル。然シソレハ「ワシントン」市「メリー

ランド」及「ニュージャージー」州ノ如ク黒人教育費丈ハ白人ト同額ノ比率ヲ費シ乍ラ、黒人ハ白人兒童ト混合セシメス別々ノ校舍ニ於テ教育シツツアル州モアル、甚タシキ地方（例ヘハ「アストラントックシティー」ノ如キ）テハ同シ敷地ニ黒人トノ學校ヲ併立シテ運動場ノ如キハ單ニ全網一ツテ仕切ツテキテ實ニ差別扱テハナイカモ知レヌカ、人種ニ依ル區別扱ノ好手本ヲ示シテキル。

北部出身ノ黒人學生トテモ勿論一度修業ヲ了リ、求職ニ直面スル、段取立至レハ彼等ノ教育訓練如何トイフコトハ第二義的ナモノトセラレ彼等ノ皮膚ノ色カ先決問題トナリ差別ヲ受クルノミナラス就職スラモ困難テアル、先ニ黒人青年層ノ覺醒ト言ツタノハ新ウシタ多數ノ中學及大學卒業生力就職ノ道ナキタメ黒人區ニ集中シテキルトイフ意味テアル。停車場ノ赤帽ヤ給仕人テスラ最近ハ少ナクトモ大學ニ在籍シタモノテナケレハ採用シナクナツタト謂ハレテキル赤帽ヤ給仕人トシテ働キナカラ夜學ソノ他ノ方法ニ依テ白人大學カ

ラ地位ヲ維持シツツアル黒人青年ハザラニアル。

急進化スル黒人

一九三四年紐育黒人區「ハーレム」ノ子供カ白人ノ店頭テ小「ナイフ」ヲ盗ンタカソノ場テ發見サレニ店

ノ起ツタ當夜ノコトテアル、同區ニハ多數ノ支那人カ料理屋
シテキルカ支那人ハ窓硝子ニ「WE ARE COLORED」ト大書シテソノ難ヲ
免レタモノテアル。

一九四一年十一月紐育市長換舉ノ付ハレル數日前ニ或ル白人カ「ハ
ーレム」ノ安宿テ黑人賣笑婦ノタメニ殺害セラレタ。元來黑人區テ
負傷ヲ蒙ツタリ殺害セラレタ場合ハ公表サレナイノカ普通テアルカ
此ノ事件ノ被害者ハ紐育テ有名ナ「ナイト・クラブ」ノ給仕人テ
「ウォルタ・ウキンチエル」氏初メ多クノ知名ノ新聞記者カラ變願
サレテキタ男テアツタ。時モ時、後ニ説明スル如キ市長改選ニ當ツ
テ黑人投票カ重要ナル役割ヲ有セル關係上、右ノ社會面記事ハ數日
間記者達ノ胸ニ秘メラレテキタカ、市長選舉カ終ルト同時ニ紐育ノ
各新聞ハ歐日ニ涉ツテ、恰モ「ハーレム」區全體カ大癡屈テアルカ
ノ如ク書キ立テタ、然モ、右ノ白人殺害事件ニハ直接觸レスシテ右
事件ト略 時ヲ同シクシテ起ツタ中央公園ノ一角テノ「ホールド・

アップ」ヲ主要出來事トシテ取扱ツタ、之ニ對シ黑人
人ノ集會ヲ催シ、黑人新聞ハ白人ノ態度反駁シ、又白人新聞社ニ抗
議文ヲ送ル黑人モ多クアツタ、黑人ハ曰ク、「ハーレム」ノ犯罪ノ
原因ハソノ環境ノ然ラシムル所テアリ、又今ニ始マツタ事テモナ
イ、而シソノ被害

政治力

南北戦争ノ結果奴隷解放トナリ、次イテ憲法修正第十三、十四及び五條ニ依テ黑人ノ市民權及政治權ハ保證セラレテキルニモ不拘現在ノ南部ニ於テハ黑人ノ政治力ハ實際上皆無ニ近イ。

南部テハ人頭税、資産額、教育試験等ノ方法ニ依テ黑人ノ政治權行使ヲ制限シ、又智識的ニ黑人ノ政治實權ヲ棄シテキル。ソノ一例ハ南部ニ於テハ豫選ニ於テ事實上政權ノ移動ヲ決セラレ公選ハ單ニ名義上ノ意味ヲ有スルニ過キナイカ、然シ此ノ豫選ニハ黑人ヲ参加セシメヌ。「テキサス」州ノ黑人有識者ハ此ノ問題ニテ争ヒ、既ニ四回迄モ合衆國大審院ニ連ヒ來ツタカ未タニ決定的勝利ヲ博スルニ至ラナイ。此ノ争闘ハ今尙續ケラレテキル。勿論黑人中ニハ白人ノ反對ヲ押切ツテ選挙場ニ出頭スルモノモアルカ、ソノ場合ハ白人ノ輕蔑又ハ暴行ヲ覺悟セナケレハナラナイ。最近テハ南部黑人間ニモ相當急進的ナ團體行爲モ現レ出シタ。一九四〇年「フロリダ」州「マ

アミ」市ニテ舉行サレタ市長選挙ニ際シ、白人ハ黑人ノ投票ヲ防ク目的ヲ以テソノ前夜黑人區全體ニ直リ「FINGERS, KEEP AWAY!! RESPECT-

FULL NEGRO'S DO

ノ場合南部十一州ノ平均ハ僅カニ二割五分テアル。極端ナ例ハ南一
コロライナ一州カラ送ラレル代議士ノ得票數ハ「カリフォルニア」
州カラ送ラレル代議士ノ得票數ノ十五分ノ一テアル。而モ合衆國議
會ニ於ケル代議士一人トシテノ價值ニハ變リナイ。茲ニ南部ト北部
トノ民意代表ニ屬クヘキ差違カアル。「註」一 黑人ノ政治努力ハ南
北戦争ヲ「リシカルン」側ニ有利ニ導イタ二十餘萬ノ黑人義勇兵ノ功
績ニ依リ黑人指導者「フレデリック・ダグラス」カ主將格トナツテ
當時天下ニ覇權ヲ握レル共和黨ト結ビ「再建期」ニハ多數ノ黑人代
議士ヲ華府ニ送ツタ。斯ノ如キ發生起源ノタメ、時々經ルト共ニ一
般カラ

「註」一「ジョージア」州ハ一九四一年ノ總選舉テ知事ノ任期ヲ二年カ
ラ四年ニ延長スル修正案カ一般投票ニ附セラレタカ、是レニ賛否
ヲ表明シタモノノ投票數ハ「ジョージア」人口三百餘萬人中、僅カ
ニ八萬三百二十票テアツタ。假リニ右ノ如キ修正案カ並行州テ決

定セラルル場合カアレハ、少クトモ人口ノ四分ノ一（凡二百五十
萬票）位ノ投票者カアルコトと思フ。南部寡頭政治ノ現狀ヲ知ル
タメノ好例テアル。

黑人即チ共和黨員トイフヤウニ思考セラレ、十

黒人ハ自己ノ立場カラ此ノ新勢力ヲ活用スル方法ヲ考究シタ。一「デ
ブリースト」氏ハ時機ヲ選セス華府ニ全黒人有志ヲ招集シ、各方
面ノ意見ヲ聴取シ、黒人政治力ノ最重要點ハ「バランシング・パワー」
（勝敗分岐要素）テアルコトヲ明カニシ、是ヲ活用スルタメニハ氏
主黨制ニモ黒人ノ勢力ヲ分殖スルコトノ案急且ツ賛明ナルヲ自覺シ
「デブリースト」ノ腹心、新進指導者「アール・デツカーソン」氏
（此ノ人ニツイテハ後ニ屢々記スル）ヲ政壇ニ伏セシメ、「シカゴ
市ニ於テ黒人民主黨ヲ發育セシメツツアツタ。他面白人側ノ政治家
モ黒人ノ新勢力ニ對シ重大ノ關心ヲ持ナ、「フーパー」大統領目ヲ
先頭トナリ、田來民主黨一黨主義テ一貫セル諸ル「ソリッド・サウ
ス」ヲ破壞セシメ、南部ニモ共和黨ヲ組織セント企テ、此ノ爲ニハ
南部ノ傳統的人種差別政策ト迎合シ、新タニ純白人ヨリ成ル南部共
和黨ヲ組織シ、黒人ヲ除外セント試ミタ爲メ、黒人カラ「リリ・
ボウイト」（白百合）共和黨ト嘲笑セラレタ。

然シ此ノ計畫ハ結局失敗ニ終ツタ。組織ノ目的ヲ達セスシテ、反
テ北部黒人ヲ民主黨ニ廻ケシムル結果トナツタ。是ニ反シ「デブ
リースト」氏ノ新計畫ハ見事ニ成功シ、四年後「フーパー」ニ代ツテ
「

想カ互角ナル場合ハ、無人ニトツテ敢モ有利ナモノテアツタ。無人投票ノ有効性ハ主トシテ地方選挙ニ現ハレル。ソノ一例ヲ舉ケルト一九四〇年ノ紐育州知事選挙テハ約五百萬ノ投票中「レーマン」知事ハ僅カ六萬四千ノ差ヲ落選ヲ適カレタカ、此ノ選挙ニ投票シタ黑人投票數ハ「バーレム」區文ケテモ五萬乃至五萬五千ト稱セラレ、紐育市以外ニモ多クノ黑人投票カアツタ。又一九四一年ノ紐育市長選挙テハ投票總數貳百四十萬中「ラグアデア」氏ノ人氣票數ハ殆參萬四千テアツタ。此ノ時紐育市五次選挙區ニ散在セル黑人投票數ハ殆參萬四千ト算セラレ、ソノ中約七割五分ハ市長派ニ投票シタト言ハレテキル。從ツテ「バーレム」ニハ知事モ市長モ無人ノ御蔭テ現在ノ地位ヲ保チ得テキルモノト信スル黑人有識者カ多數アル。黑人ノ政治力及「バランシング・パワリー」ニ就テハ從前カラ考ラレタコトデアツテ、現ニ王府「ワシントン」生レ及永久的居住者タル米國市民カ投票權ヲ導ハレテキルトイフ背後ニハ同地ニ於ケル黑人政

治力ニ對スル恐怖カ王ナ理田トナツテキル事ハ、今テハ公然ノ秘密ナル。華府ノ白人ハ政權ノ交代トトモニ移動シ、定住者ハ極メテ少カツタカ、是ニ反シ黑人ハ比較的卜層級ナルタメ

ノ上テハ、北の共和黨、北の民進黨、カ共同一致シテ、南部民進黨ト對立シテ利害ヲ爭ツタ場合カ多カツタ。黑人ノ祖ヒ所ハ斯クノ如キ政治ノ動キテアル。故ニ一九四一年ノ總選挙ニ於テハ「ルースヴェルト」ノ第三選ヲ受得スルカ否カニ就テ黑人間テハ相當鋭イ論戰カ爾ハレタモノデアル。「ルース」氏及「ニューデール」一派ノ急進改革者達カ黑人ノタメニ過去八年間ニ盡シタ貢獻カ相當不キナモノテアツタトイフ點ハ凡テノ黑人カ認メルトコロテアツタ。殊ニ「エリナ」一天ハノ黑人間ニ於ケル人氣ハ非常ナモノテアツタ。第三選實成者ハ此ノ事實カ何ヨリモ雄辯テアルトイフ理由ヲ押シ通シタ。是ニ反シ反對ヲ表明セル黑人職者ハ、第三選ノ結果ハ中央政權ヲ支配スル勢力ハ南部選出ノ職業政治屋連ノ掌中ニ歸スル結果ニナリ、黑人ニ對シテ最も不利益テアルト強調シタ。三選ノ結果ハ果タシテ反對者ノ豫期セシ如キ現象トナリ、現在テハ上院及下院ノ主要ナル委員長ノ椅子ハ殆ト全部カ南部選出議員ノ獨占セル形デアル。彼等ノ反

25

黑人態度ヲ分析スル點カノ刀ハ「ルースヴェルト」大統領ノ黑人ニ對スル關心

三 本國黑人ノ日本ニ對スル關心
日 露 戰 争

第一次世界大戰ノ終局トモニ「パリ」ニ於テ和平會議カ開カレ
タ際日本代表牧野金權ニ依テ提出セラレタ世界人種平等承認案カ米
國黑人ニ如何キ大キナ影響ヲ與ヘタカハ周知ノ事賈テアル。多クノ
黑人ノ家庭ニハ牧野金權ノ編真カ掲ケラレテ有色人種ノ救正主ノ如
ク尊敬セラレタ。全權一行カ米國ヲ通過シタ際、紐育テハ黒人有志
カ連名シテ請願書ヲ托シタ事實カアル。ソノ指導者ノ一人ハ現在紐
育市テ有名ナ世界一ノ大衆教會「アゼシニア」浸禮教會ヲ設立セル
「クレイトン・パウエル」牧師デアツタ。同氏ハ數年前壹萬貳千
ノ會員ト五人ノ副牧師ソノ他數十名ノ補助牧師トヲ實子「アダム・
パウエル」氏ニ譲ツテ隱退シタ。因ニ「アダム・パウエル」氏ハ一
九四一年十一月紐育市選出黑人市參事會員トシテ當選シ、青年指導
者ノ一人トシテ矚目セラレテキル。

26-a

黑人ノ日本ニ對スル關心ハ日露戰爭ニ始マル。當時發行セラレタ無
人雜誌雜誌「ヴォイス・オブ・ニグロ」(黑人ノ聲)ヲ編輯スレバ
日露開戦ヨリ「ボーツマス」條約締結マテノ經緯力號ヲ追ツテ報導
セラ

中ニ「**ザ・アフリカ**」ノ謀都市ヲ郵便局長ヲ勸メテキタ黑人英属
殖民地官更カラノ私信カアツタ。此ノ内容ハ一九一〇年ニ差出シタ
年賀状ニ附加シテ世界人種問題、殊ニ米國黑人問題ニ關シ教員ニ對
ル意見ヲ述ヘタモノデアツテ、當時米國黑人指導者トシテ知らレテ
キタ「**ブー・カー・テイ・ワシントン**」ノ迎合主義ヲ非難シ、彼ハ「**ハネー・アンド・ホモニー**」主義（「**ホモニー**」ハ黑人ノ常食物テ
アリソレニ僅カノ蜂蜜ヲ加ヘタタケテモ満足スルトイフ意味）ノ信
奉者デアルト嘲笑シ當時「**ワシントン**」ニ反對シテ黑人ノ高等教育
政治其ノ他社會平等權ヲ主張セル新進學者「**デューボイス**」博士ノ論
說ヲ讀ヘ、更ニ日露戦争ノ歴史的教育ニ言及シテキル。曰ク「運カ
ラヌ將來ニ於テアノ日本海軍艦ハ米國榮華沖ニ於テ繰リ返サレル日
カ到來スルテアラウ」ソシテ米國黑人ハ徹底的ナ人種平等ノ戰ヲ闘
ヒ、コレニ對シ白人カ彼等ノ要求ヲ拒ム場合ハ、右ノ如キ大暴行ニ
直面スル議會ニ黑人ハ米國ニ反旗ヲ翻スヘキデアリ、又平素斯カル

準備ヲ爲スヘキデアリト斷シテキル。一九二〇年頃ヨリ問題トナツ
タ加州

イフ學問ノ句テアル。ハニ同シク黑人高級雜誌「オボテユニテイ」誌モ社説テ日本ノ大陸進出ハ現代ノ歐米資本主義發展ノ必然ノ結果ナアリ此ノ道ヲ進ツテ來タ白人運カ日本ヲ非難スル理由ハ全ク無イト論シテ中々。

雄辯家及文筆家トシテ過去十數年ニ涉ツテ全國ヲ巡視シ、黑人向上會ノ組織ニ力ヲ注イテキル「ウキリアム・ビゲン」氏（現大藏省黑人關係相談役）ハ黑人新聞聯合通信社ヲ進シテ編文ヲ發表シタカソノ一節ニ「白人ノ侵襲ハ南洲ノ野ニ殺害セラレ、ソノ葬式ハ上海ニ於テ當マレタリ彼ノ亡靈ハ今後モ暫ラク東洋ノ空ニサ迷フカモ知レヌカ、ソノ正體ハ既ニ亡キモノトナレリ」ト絶叫シタ。黑人新聞中南洲學變ヲ取扱ツタモノモ少ナクナカツタ。

支那事變

支那事變カ突發スルト同時ニ黑人ノ對日本同心ハ一層強メラレタ。黑人新聞及雜誌カ此ノ事變ヲ論スルト共ニ、黑人青年會、教會ソノ他ノ團體テ日支問題ノ討論會カ催サレ、日本人辯士モ斯クノ如キ集會カ招カレタ。時恰モ一般米國ノ空氣ハ反日的テアリ、又黑人間ニハ相當左翼思想カ根柢ク浸ミ込ミツツタ際テアリ、殊ニ此ノ左翼ノ

向ケテ發セシレ。支那側ノ痛イ所ヲ刺スヤウナ質問ハ支那辯士ニ向
ケテ發セラレタ。終リノ人氣投票テハ日本ヲ正當ト認ムルモノカ區
倒的多數テアツタ。筆者カY W O Aヲ訪ネタ時、遇然ソノ場ニ居合セ
タ一人ノ黑人婦人カラ、女工ヲ中心トスル集會ニ出席シテ、日支間
題ニ就テ話シテ呉レルヤウニト相談ヲ受ケタ。Y W O A關係ノモノ
テアラウト早合點シテ、ソノ場テ承諾ヲ與ヘ、後日場所ト時日ヲ改
メテ打合ハセルコトニシテ置イタ。一週間バカリノ後、電話テ日ト
時間ノ打合セラシタ。ソノ後、問モナ會場ヲ通知シテ來タ。約束ノ當
日會場ノ前ニ着イテ驚イタコトハソレハ「ハーレム」黑人共產黨本
部テアツタ。入口ニハ堂々ト筆者ノ名前カ掲ケラレテアルノテ面喰
ツテシマツタ。然シ若シモ出席セスニ違約スレハ必ス機體誌ヲ照口
ヲ書カレ、後カ面倒タト考ヘ、虎兇ヲ養ルノ覺悟テ會場ニ入ツタ。
聽衆ハ殆ト滿員ヘト言ツテモ過カ百二十三名ヘテアツタ。間モナク
司會者ノ辯士紹介テ集會ハ開カレタカ、司會者曰ク「本日ノ講演者

ハ米國ニ於ケル日本軍部ノ嚴シイ監視ヲモノトモセス勇敢ニ此處ニ
出席シテ、我々ノタメ日支事變ニ就テ話

補佐ヲ務メテキタルカラ招待ヲ受ケテ同家ノ客トナツタコトカアル。
「ヴァン」氏ハ一夜同市ノ黑人及白人有志十數名ヲ私宅ニ招イタ。
白人ノ中ニハ「ビツバグ」大學教授達モキタカ、深夜ニ至ル迄日
支間講ヲ種々ナ角度カラ討論シタ。當時一般民衆ノ日本ニ對スル關
心ハ極メテ幼稚ナモノテアツタ。列席中ノ一白人婦人ハ筆者ニ對シ
『日本ハ何故無辜ノ支那婦人ヤ兒童マテモ爆撃スルノテスカ?』ト
質問シタノテ、『反日宣傳ヲ信シラレルト否トハ貴女ノ自由テカ、
而シテヘテ見テ下サイ。オ國ノ新聞ニ依レハ、日本ハ砲彈ヲ造ル爲
ニ鐵屑ヲスラモ米國カラ買ツテキルノテス。ソノ大切ナ品物ヲ女ヤ
兒童ノタメニ「ウエイスト」スル程ニ日本軍人ハ無常識テモウカ?』
ト反問シテ一同ヲ笑ハセタ。
一九三九年二月「ボストン」市ニ開催サレタ全國黑人婦人聯盟總會
(二五ニ一度大都市テ開カレル四十萬ノ會員カラハレタ數千ノ代
表者ノ會)カラモ招待セラレ二回ニ涉ツテ日本ノ世界的使命ニツ

イテ話シタ。當時維育ニ居ラレタ關西學院ノ竹内教授ハ大毎ノ百々
支局員等モ時々黑人カラ招カレテキルヤウテアツタ。日本ニ旅行セ
ル黑人ヲ通シテ米國黑人間ニ日本認識カ深メラレツツアルカ、此ノ
事ニ就テ

三、日米戦争ト黑人

黑人ノ要求

第二次世界大戦ノ勃發トモニ米國ハ朝野ヲ率ケシ黑人問題ニ對シテ異狀ナル關心ヲ持チ神經ヲ尖ラセルニ至ツタ。強制徵兵令施行並ニ募集員ノ比例ヲ白人壯丁ノ九分即チ百萬ニ對スル九萬ヲ黑人中ヨリ徵集スル方針ヲ立ツルニ至リ、有歴以來初メテ黑人ヲ陸軍少將ニ任命シ、黑人飛行部隊ヲ設置シ、各省ニアル黑人關係ノ連絡機關ヲ強化スル等ノ方策ヲ敷カレタ。又民間ノ諸團體ヲ於テモ黑人ニ關心ヲ持チ、特ニ黑人ノ爲メニ宣傳文書ヲ發行スル者モ尠クナカツタ。又米國基督教會及ヒ米國式自由主義ヲ信奉スル知識階級モ黑人ニ對スル同情ヲ示シ、米國民主主義ト黑人トニ關聯シテ意見ヲ發表スル人モ續出シタ。有名ナ支那通ノ米人「パール・バック」女史ハ十一月十五日雜質「タイムズ」ニ長文ノ投書ヲ寄セ米國ハ黑人問題ヲ輕視シテ此ノ戦ニ臨ムコトハ全く無意義デアルト主張シ、黑人ノ代辯

者ノ如キ意見ヲ發表セタ。此ノ投書ハ黑人識者間ニ好意ヲ以テ迎ヘラレタ。黑人雜誌「クライシス」(危機)ハ其ノ全文ヲ十二月號ニ轉載シタ。斯クシテ數萬ノ黑人識者等カ「パール・バック」女史ノ戰争ノ人道的檢討論文ヲ讀ミツツ

ケ爲ストコロヲ知ラサリシ米國ハソノ一週間後ニ言論、出版、集會
諸事ノ自由ヲ高調スルタメニ御祭儀キラ演シタ。黑人ニトツテハ渡
リニ船テアル。

元來黑人ノ要求ハ白人ト平等ノ機會ヲ得スルトイウコトテアリ、
從ツテ人種平等ヲ標榜シテ向上ヲ圖リツツアル。最近ニ亘ツテ人種
平等ニ代ルニ人種的特色（「デステレクシヨン・オブ・レーゼス」）
ヲ高調スヘジトイフ少數識者モ生シツツアルカ、一般トシテハ米國
國ノ精神ヲ完遂スルコトカ黑人種ニ附與セラレタ天命テアリ、黒
人カ白人ト同様ノ位置ニ處シ、同一機會ヲ得得シタ時ニ初メテ米國
民主主義ハ實施スル譯テアル、故ニ黑人ノ立場カラハ黑人ノ戦ハ單
ニ彼等ノ爲ノミナラス、米國一般ノ爲ニ戦ハレテキルモノト信シテ
キルノテアル。黑人問題ハ聯邦シテ一九二〇年頃マテ稱ヘラレタ標
語「黑人問題ハ米國民民主主義ノ「バロメーター」テアル」及ヒ一九
三〇年代ノ標語「黑人ハ「デモクラシー」ノ試金石」トイフヤウナ

行キ方ハ前記ノ如キ黑人ノ米國民民主主義觀ヲ理解スルニ非サレハ、
眞ノ眞意ヲ把握シ得ナイト思フ。更ラニ其言スレハ米國ノ黑人問題
ナル

カ、發表セラレ、戦争ヲ勝利ニ導クトイフ意味ヲ有名ナ標語「V
イ・フォー・ア・ビクトリー」ノ略「V」ノ「サイン」カ英米ノ全
聯合國家ノ表徴トナツテアラユル機關ト機會ニ利用セラルルニ至ッ
タ。此ノ時米國黑人間ニテハVニ代ルニ今此ノ戦争目的ヲ「ダブル
V」ヲ以テ表徴シ曰ク「ヴィクトリー・フォー・アット・ホーム・エ
ンド・アブロード」(國內及國外ニ於ケル勝利ノ獲得)ヲ建前テ進
ムテキル(挿圖参照)

右ノ如キ事情テアルカ故ニ、黑人トシテハ日本ニ對シ、此ノ際公然
ト日本ニ對スル同情ヲ發表シ難イ事情ニアリ。黑人新聞ニハ此ノ邊
ノ窮狀ヲ看取スルコトカ出來ル。「オハイオ」州「シンシナテ」發
行ノ黑人新聞「ユニオン」紙ハ、日本ハ小國ヲ以テ世界ノ二大強國
ニ挑戦シタソノ勇敢サヲ稱ヘテキル。黑人社會黨幹事「フランク・
クロスウエート」氏ハ受持禮ニ於テ日本問題ニ對スル黑人ノ態度ヲ
二回ニ涉ツテ評論シ、黑人讀者ヨリノ鼓舞サレル親日的精神ノ要點

ヲ發表シテキタ。

黑人一流新聞記者トシテ知ラレタ「ジョージ・スカイラー」氏ハ日
本ノ比島占領ニ對シ、紐育「タイムズ」始メ多ク白人新聞カ頭

アラウカトイフ題目ノ下ニ長文ノ記事ヲ掲ケテキタ。ソノ内容ハ日露關係ノ將來ヲ論シタモノテハ無ク、日露戰爭當時ノ目撃シイ日本ノ戰果ヲ歴史的ニ汲ヒ、大山、野津、乃木、黒木等ノ將星ノ軍功ヲ稱ヘ日本海々戰ノ記録ヲ掲ケテキタ。

黒人ノ日本認識

黒人ノ對日本認識ハ相當深イモノカアル。ソレハ日本及ヒ東洋ヲ旅行セル黒人識者ヲ詢シテ黒人知識階級ニ傳ヘラレキル。現ニ陸軍徴兵官黒人部專任者「チャニング」トバイヤス「氏」ノ如キハ、一九三七年印度「マドラス」市ニ開催サレタ世界基督教徒大會ニ出席シ、日支事變勃發三ヶ月前ニ日本ヲ通過シタ。氏ハ歸國後旅行印象記ヲ謄寫判刷ニシテ數千ノ黒人識者ノ間ニ配布サレタカ、其ノ一節ニ、日本ニハ何事カ起ツテモヨイ丈ケノ準備カ既ニ整ツテキルトイッテキル。京都市ニ開催サレタ太平洋問題研究會ノ米國代表ノ一人テアツタ黒人學徒「ジェームス・ウエルドシ・ジョンソン」氏カ歸米ノ

途上「ホノルル」ニ歸カレダ有志ノ晚餐會テ、人種問題ヲ無視シテ太平洋問題ヲ探討スルコトハ洵ニ片手落ナ企テアルト叫ビ、全出席者ニ冷汗ヲカカセタ事件ハ黒人間ニ有名テアル。「ジョンソン」氏ハ後日自傳

ノ名勝見物モ印象深ク、今一度悠々ト日本ヲ訪問シタイト言ツテキ
タ。此ノ話ハ「テビス」氏カ大佐時代ニ細育市黑人護國軍第三百六
十九聯隊指揮官トシテ任命サレテ間モナイ時ノコトデアツタ。筆者
ハソレニ答ヘテ何卒御來遊ヲ乞フ、然シ第三百六十九聯隊全部同伴
シテハ如何テスカト即答シテ、御互ニ哄笑シタモノデアアル。數年前
日本ヲ訪問シタ黑人指導者中ノ第一人者ヲ以テ認メラレテキル「デ
ューボイス」博士ハ常ニ世界的見地カラ米國黑人問題ヲ考究シテキ
ル人デアアル。一九二五年ニ發表セル論文中ニハ、日本ヲ中心トシテ
亞細亞及「アフリカ」ノ理解セラルル日ノ遠カラサルヲホノメカシ
テキル。氏カ日本旅行中ニ受ケラレタ印象ニ就テ、歸國後數回ニ亘
ル旅行記ヲ草シ、又講演等ニ於テ新ラシイ日本ノ姿カ黑人間ニ紹介
サレテキタ。斯クノ如キ黑人間ニ信用篤キ識者ニ影響ニ依リ黑人
青年間ニモ日本ニ對シテ注目シテキルモノモ多數アル。最近著述家
トシテ有名ニナツテキル「ネーテブ・サン」(「註」黑人ノ息

子、江森盛彌譯)ノ著名「リチャード・ライト」氏ハ「ビツガ
ト・トマス」ノ生ビ立チ「トイフ小冊子中ノ一節ニ曰ク「我々黑人青
年ハ日曜新聞ノ色刷版ニ掲ケラレル色ノ黒イ日本陸軍將校ノ寫眞ヲ
見詰メテキル時ニ、心中

黒人ノ言論

日米開戦後ノ黒人ヲ勤向ヲ知ル資料ヲ得コトハ極メテ困難テアツタ
カ、數種ノ代表的黒人新聞及雜誌カラ彼等モ所論ヲ採萃スル。
「リメムバー・パール・ハーバー」(眞珠灣ヲ記憶セヨ)!! 此ノ
標語程ニ米國民衆ノ反日感ヲ煽ルニ役立つタ言葉ハ恐ラク他ニナカ
ツタト思ハレル。後日ニ至ツテ「ロバート」報告カ發表セラレタ結
果、眞珠灣事件ヲ記憶スルコトハ、結局自分等ノ不覺ト大失策トヲ
記憶スルコトニナルトデモ氣附イタモノカ、此ノ標語ノ使用ハ戦
的ニ漸次下火ニ向ケ遡ニハ一般ノ使用ヲ禁止シタ。
本年一月及二月頃「リメムバー・パール・ハーバー」カ全米國ヲ風
靡シテ凡ユル機關ニ利用セラレテキタ時、黒人ハ此ノ標語ヲ自己ノ
武器トシテ逆用シタモノテアル。

「ジョージ・エス・スカイラー」氏(註)ハ曰フ(二月十四日)

「註」十年計リ前ニ米國人種問題ヲ取扱ツタ諷刺小説「ブラック

ノ・モーア」黒人ハ消ヘ失セタリ」ヲ著ハシタ人。此ノ小
説ハ有名ナ日本ノ科學者カ皮膚色ヲ數分間ニシテ轉化スル方法
ヲ發明シ、此ノ變色術カ「ハーレム」ノ黒人間ニ大好

ナイノテアル。黑人カ州ル事件ヲ記憶スルコトハ洵ニ喜ハシキコト
テアル。コレハ不斷ニ行ハレツツアル人種進化ノ正路ヲ我々カ辿リ
ツツアル證據テアル。我々ハ「パール・ハーバー」ヲ記憶スルテア
ラウ。同時ニ我々ハ「是ハ白人ノ國テアル」ノ立札ヲ忘レルモノテ
ハナイ。我々ハ星條旗ノ下ニ戰ハネハナラヌ、又戰フテアラウ。然
シ乍ラ最早我々ハ盲目者テハナイ。

白人ノ不正義ト此ノ偽善トヲ合衆國ノ良心ニ訴ヘルコトハ我々黑人
ニ課セラレタ義務テアル。我々カ立上ル時ハ來ツタ。("Now is the
time for sedition") 我等ノ問題ト我等ノ所信トヲ正々堂々ト全國民
ノ面前ニ披露シ、主張スル時カ到來シタ。我々ハ「パール・ハーバ
ー」ヲ記憶シヤヌ。又我々ハ寔ニ對スル報復ノタメニモ力ヲ添ユ
ルデアラウ。而シ我等ハ決シテ我々自身ヲ忘レルモノテハナイ。」
『今週ノ世界』三月二十六日欄ニ於テ「アイラ・エフ・ルキス」氏
曰ク、

「日本ハ今我等ノ敵國テアルカ故ニ米國黑人ノ敵國トモナツタ譯テ
アル。併シ日本ト支那人トノ何レヲ選フカトイヘハ黑人ハ遙カニ日
本ヲ選フ、支那ハ最も卑下スヘキ「アシクル・トム」デアツテ白人
ノ手先トナツタ最も下等ナ人種テアル。戰前上海ニハ國際特別區カ
設ケラレテ茲

乍ラ布哇ヲ廢棄シテ以來、彼等ノ欲シタ三ヶ月ハ過キ去ツタ。而シテ今我等ハ日本海軍カ南太平洋ヲ支配シテキルコトヲ認メサルヲ容テイ状態テアル。日本海軍ノ實力ハ單ニ米國ニ對シテオミナラス、聯合國ノ總力ヲ威嚇シテキルカラテアル。此際米國海軍ニ大鐵槌ヲ加ヘ、單ニ年長者ナルノ故ヲ以テ高位ニ在ル者ヲ振落シ、現代戰爭知識ニ適應スルモノト交代セシメナケレハナラス。現代ノ戰爭ハ全ク新ジイ武器ニ依テ戰ハレルノテアツテ、現在ノ米提督選ノ在學時代ニハ學ハナカツタ戰術テアリ、又雷戰ニ參加經驗ノナイ誰彼等ヲ知ル善カナイノテアル。」

「否、英海軍スラモ覺醒スル必要カアル。日本ハ英國最大ノ戰艦二隻ヲ空襲ニ依リ一時間内ニ滅亡セシメタノテアル。英國海軍ハ、被害ヲ受ケタ獨逸ノ軍艦二隻カ英海軍ニ追スルノヲスラ阻止メ得大カツタ。『ノールウエー』沖ニ於テ英國海軍ハ獨逸戰艦『テルビツ』ヲ發見シタカ、獨逸側テハ煙幕ヲ發シテ無事ニ遁ケ去ツタ。白

八海軍派組員カ無人カラ恒埠ヲ受ケルコトヲ快ク思ハナカツタ時代カアルカモ知レヌ。併シ斯クノ如キ時代ハ今や過去ニ墜ラルヘ

シテ自己ノ傳統ヲ嗣和スル現實性ヲ所有シ、封建主義カラ資本主義ニ移行シ、而モ兩者ノ長所ヲ保存シテキルノニ心服シテキタ。日本ノ歴史ト經濟發展トニ就テ幾分ノ知識ヲ得ツ私ハ嘗テ一度タリトモ一被米人カ爾イアキルヤウニ、日本ヲ以テ軍國主義テアルトイフ觀方ニ斷シテ祖スルコトハナカツタ。斯カル非現實的幻ハ人種偏見ニ轉セラレタ見方カラ生レタモノテアリ、目分ノ好マサル相手ヲ批評スル好マシカラヌ愚癡テアル。日本ハ過去數十年間ニ涉ツテ支那「マレー」「ボルネオ」、印度支那ソノ他ノ隣接地帯ニ在ル被壓ノ人々力乘リ來ツタ致命的ノ運命カラ遁レンカ爲メニ、決死ノ奮闘ヲ續ケ來タモノテアル。白人ハ此ノ間絶エス日本ヲ嘲ケリ、輕視シ來ツタモノテアル。此ノ心理ニ對サレタ白人ハ遂ニ「ルゴン」ニ於テ慘敗スル。ハーパー」ニ、香港ニ、又「シンガポール」ニ於テ慘敗スル。直接ノ原因トナツタノテアル。

私ハ日本ノ切腹ノ習慣ニ非常ナル尊敬ヲ拂ツテ來タモノテアル。是

レニソ一國ノ進歩ニ妨礙スル無責任者ヲ罰シ、健全ナル國家ヲ保有スル爲メニハ理想的道徳ヲテアル。此ノ習慣ニ依テ指導地位ニアル人ハ責任ヲ感シ嚴密ヲ充レルコ

値ニ知ルコトヲ望ミ、奥國ノ物ノ狹マツタヤウナ我境ヲ好マヌヤウ
ニナツテ來タ。白人ハ「オーストラリア」ニ於テ有色人種拒絶力實
行サレ方キルコトヲ知ツテキル。彼等ハ米國ニ於ケル黒人ノ不偏ヲ
然知シ從ツテ色無イ米國軍人モ斯クノ如キ状態ノ存在ヲ快ク思フテ
キナイ事ヲモ知ツテキル。

「米國黒人カ「オーストラリア」ノ爲ニ戦フ場合ニハ、斯ウシタ事
實ヲ認識シタ上ニ戦フノテアル。黒人ハ「オーストラリア」「ニュ
ージーランド」及ヒ南「アフリカ」ノ專制的社會ハ當然崩壊スヘキ
モノナルトイフ議論ヲ常ニ闘ハシテキル。此ノ黒人ノ態度ト主張
ハ洵ニ正シイモノテアリ、ソレニ對シテハ白人モ黒人ノ正シイ事ヲ
私ニ認メツツアル。茲ニ新シイ希望カアル。」

「現在在籍黒人ノ立場ヲ擁護スル多數ノ白人ノ在ルコトヲ聞イタコト
カナイ。即チ「ウエन्दル・ウィルキー」氏、「エリナ・ルーズベ
ルト」夫人、「シカゴ・サン」紙、P・M紙、「ハワード・グイン

セント・オブライエン」氏、「ハーバート・アガ」氏、「バール
バック」夫人、「クリ！ブランド・ブレイン・リーダー」紙、「コ
ーリア」誌、共垂然、「マルコン・マツクレイン」氏及ヒ「マー
ク・エスクツヂ」氏ノ如キテアル。是

ルモノナナイ。

「辛ニシテ我カ國ハ未タ侵入サレデキナイ、斯カル小群ノ無イコトヲ找テハ日々研ツテキル。米國カ過去ノ不調状態ヲ改メ、將來ノ爲ノ目田ヲ平等ヲ實現化スル爲ニ、此ノ際機ヲノ市民ノ目田ヲ擁護スルトイフ新政策ヲ樹立スルコトハ今ナラハ不々遅クハナイ。」

日系市民ト黒人

左ニ記スルモノハ日系市民ヲ虐待シツツア、米國ノ暴逆ナル態度ト黒人ノ受ケツツア、追害トヲ比較シタ黒人新聞ノ社説テアル。

豫テ政府安價住宅事業ノ一ツトシテ「デトロイト」市黒人ノ爲ニ廣大ナ「アバートメント」カ建設セラレツツアツタカ、本年二月完成シ、曾夫南北戦争當時有名テアツタ黒人婦人ノ功績ヲ記念スル爲メ彼女ノ名ヲ取リ「ソージョニア、ツルース」家屋ト命名シテ、黒人ヲ迎フルコトニナリ、愈引移リノ當日ニ至ツタ際同市ノ白人ハ新カル高級住宅ニ黒人ヲ入レルトハケシカラントイフ理由ヲ焼打マテ敢テ演シタ。此ノ事ハ全國ニ傳ヘラレ紐育「タイムス」ナトモ數回ニ亘ツテ報導シタ。

ソノ後コノ事件ハ黒人ノ勝利ニ終タカ左ノ評論ハ當時（

人ノ爲メト設ケラレタルノ性々々ノ甚タシイニモ拘ハラヌ、寧ろ家
ノママテ置カレテアル。「デトロイト」市ノ三千ノ警官モ米國ノ二
百万ノ軍隊モ黒人ノ爲ニ設置サレタ此ノ家屋ニ黒人カ住ムコトヲ妨
害シツツアル暴徒ニ對シテ河事モナシ得サルカノ如キ有様テアル。
此ノ暴徒ハ白人テアリ、此ノ事件ノ解決ヲ待チ望ンテキル犠牲者ハ
黒人ナノテアル。合衆國ハ最モ賢明ナル外交官ト戰術ニ優レタ軍事
専門家ト勇敢ナ陸軍、海軍ト有スルコトヲ世界ニ誇リツツアル。併
シコレ等ノ人々ハ僅カニ線瓦ヤ木ノ棒ヲ押シ寄セル愚衆ノ前ニハ全
ク無力テアル。精銳ナル武器ヲ具ヘル一万哩彼方ノ敵軍ニ對シテハ
遙遠、勇敢決斷ヲ以テ當ラントスルカ「デトロイト」市ノ僅カノ示
威運動ノ前ニハ卑怯躊躇ノ物笑ヒヲ晒シテキル。由中央政府ノ命令ニ
反抗シツツアル此ノ傍若無人ノ少數ノ白人ニ對スル米國ノ態度トハ
米國カ六万人ノ日本系米國市民ヲ「カルフォニア、オレゴン」及ヒ
「ワシントン」洲ノ家庭カラ強制的ニ奥地ヘ追放シツツアル、アノ

決然タル態度ヲ比較セヨ。ソレハ甚ダハ祖父母カ日本
カラ渡來シタトイフ理由

ニテ大統領ニ書面ヲ以テ、日系市民ノ懇願ヲ決定スル、市民委員
會ヲ設立スルヤウ建言シタ。斯ノ如キ議論ノ圖ハレツツテ大統領
領夫人ハ聲明書ヲ公表シテ政府ノ態度ヲ支持シタ。元來同夫人ハ人
種問題、殊ニ國內ノ人種問題ニ就テハ常ニ前記自由主義者ト主張
ヲ同シクシ、憲法ヲ循ニ公平ナ態度ヲ執リ來ツタ人デアリ、ソノ故
ヲ以テ黒人間ニ人氣ヲ博シタカ、今度日系市民隔離問題ニ直面シテ
ハ、特ニ他ノ自由主義者ト反對ノ態度ヲ執ルニ至ツタノテアル。此
ノ事件ハ黒人讀者ニ新タナル刺激ヲ與ヘタコトト思ハレル。

政府ノ對策

政府ハ黒人ノ愛國心ヲ煽動スル目的ヲ以テ三月十九日華府議會圖書
館ニ全國カラ五十名ノ代表者ヲ選出シテ、會合ヲ催フシタ、此ノ會
ハ現在O、F、F（オフィス、オブ、フナクツ、エンド、フイギヤ
ース）ノ選舉ニシテ議會圖書館長「アーチボールド、マクリツシ」
氏ニ依テ招集セラレ、氏ノ補佐役ニハ「シシシナチ」市テ有名ナ新

進黒人辯護士「ジェネラル、エム、ベリ」氏ヲ選ハレテ此ノ會合ニ
現ハレタ、黒人ノ態度ハ時節柄非常ニ重要デアル。會合ノ目的ハ言
ヲ迄モナク、第一當局者中頑固ナルモノ

二月十五日「フィラデルフィヤ」市ニ住ム「ヘンリー・カーペンター」トイ三十四才ノ黒人ハ憲兵ニ拉致サレタ。彼ハ黒人ノ兵卒ニ向ツテ、「黒ン坊カ軍服ヲ着ルナシテ氣狂ジミタ話タ。此ノ戦争ハ政府ト白人ノ戦争デアリ、結局ヤクザ者ノ白人ヲ助ケテヤルヨウナモノタ。何等益スルトコロハ無イノテアル」ト公言シテ合衆國ノ檢察局ヘ送ラレタカ此ノ事件ニ關シ紐育市發行ノP・M・紙ハ二月十六日ノ社説ニ於テ曰ク「「フィラデルフィヤ」テ一人ノ黒人カ、コノ戦争ハ白人ノ戦争ダト言ツタトイフ理由テ起訴サレタ。黒人ノ熟練工ハ飛行場カラ追放サレ、黒人ハ米國海軍カラ拒マレ、黒人カ獻納スル血液ハ米國赤十字社ト白人ノモノト間違ヘナイヤウニ區別サレツツアル。一人ノ黒人ハ先日白人巡查ニ狙撃サレ更ニ「ガソリン」ヲカケテ「リンチ」サレントシタカ、辛フシテ一命ヲ助カリ、今商部ノ病院ニ呻ヒテキル。我々ハ黒人カ彼等ノ所爲ヲ被シ

シタカラトイツテモ千三百萬人ヲ全部投獄スルコトハ不可能デアル。又黒人ニ禁慾ヲ起サセナガラ、此ノ戦争ヲ

望ム、併シ作ラ氏ハ單ニ幻ヲ追フチルノ元ハアルマイガト考ヘラ
レル。幻々ケテハ戦争ニ勝テナイ。我々ハ既ニ全國一致テアルトイ
フ御題目ヲ繰リ返シタダケテハ全國一致ノ實ハ擧ケラレナイ。黑人
一般カ考ヘツツアル僞ナキ意見ハ、先月開カレタ黑人指導者大會ノ
決議ニ依テ知ルコトカ出來ルト思フ。

黑人代表者ハ云フ。「我等ハ黑人カ戦争遂行ノ爲メ全身全力ヲ惜シ
ミナク無條件テ棒ケツツアルトハ考ヘナイ」、勿論黒人間ニモ各種
ノ異ツタ意見モアル、併シ大體ニ於テ「ヒトラー」反對、「ルーズ
ベルト」賛成、而シ戦争ソノモノニ對シテハ生溫イ態度ヲ持ツテキ
ルト見做サレル。今朝黑人カラ來タ投書ノ一ツニ、「私ノ娘ハ今
「フロリダ」ノ陸軍「キヤムプ」ニキルカ、玆テ黑人兵ヲ扱フ態度
ハ獨逸ニ於ケル猶太人ノ取扱ヨリモ苛酷テアルト考ヘテキル。若シ
モ速カニ此ノ狀態ヲ改善シナケレハ黑人兵達ハ誰カ勝タウトカマワ
ナイトイフ考ヲ起スニ至ルアラウ。種々ナ點テ黑人ハ此ノ戦争ハ

白人ノ戦争テアツテ、黑人ノ戦争テナイト信シテキル。白人自身ノ
黑人ニ對スル態度

「黑人向上會」の「ウォルター・ホワイト」氏ハ監査總指揮官「マーシャル」大將ニ對シ、人種、信條、皮膚色、或ハ原國籍ヲ問題トセサル人々ノ入出來ル特別義勇隊ヲ組織スルヤウ建議シタカ、是レハ（軍部ノ對黑人態度ノ現状ニ鑑ミ）洵ニ條理アル建議トシテ歡迎スルモノテアル。」

結 論

民族愛カ國家愛カ、ソノ何レヲ優先目標ニ選擇スヘキカトイフコトニ就テ米國黑人ハ迷ヒ來ツタ、今尙迷ヒツツアル、現在米國カ直面シツツアル危機ニ際シ黑人カ執リツツアル態度ノ一般ニ就テハ前記ニ依略的ニナツタト思フカ、彼等カ斯ノ如ク非妥協的且ツ獨立的ナ主張ヲ固執スルニ至ツタ原因ノ主ナモノハ

- 第一、前歐洲大戰ノ經驗
- 第二、他ノ少數群體ニ加往力、「ニグロ」人等下トノ連絡
- 第三、黑人教育ノ漸進的普及及發達
- 第四、共產黨ノ影響
- 第五、労働組合トノ密接化
- 第六、少數白人先覺者ノ人種問題ニ對スル關心
- 第七、新型黑人指導者ノ出現
- 第八、黑人問題ノ政治化

理想的ニハ米國市民トシテ訓育セラレ、現實テハ黑人トシテ、特別劣等生トシテ強ヒラレツアル、黑人青年ノ潑刺タル精力ハ遂ニ彼等ヲ自暴自棄ニ陷レ、最近文壇及劇界ニ有名ナ「ネーターブ、ソシ」(黑人ノ息子)ノ如キモノカ生レルニ至ツタ。

黑人ハ米國三大少數群國ノ一ツテアル、數ニ於テハ加徒力教徒ノ二千三百八十萬ニ及ハス、又一般知識經濟及社會勢力ノ點テハ人口四百五十餘萬ハ「ユダヤ」人ニ劣ツテキルカ、人種問題殊ニ皮膚色ノ相違トイフコトカ黑人問題ノ中心點トナツテ一千六百萬ノ米國市民カ憲法ト米國ノ理想トノ實現ヲ追求シテキルノテアルカラ、少數群トシテノ迫力ハ他ノ少數群國以上テアルトモ視ラレル、他ノ少數群國カ黑人トノ共同戰線ヲ張ラントシテ黑人ニ近ヨリツツアルノハ、此ノ黑人ノ社會的迫力ト、近時發展ヲ示シツツアル黑人政治力ノ故テアル、
加徒力派ノ黑人ニ對スル關心ハ一九二八年以來拍車カカケラレテキ

ル。一九二八年「加徒力教徒」ノ手挽屋共ニ

ニ優レテキタト認メラレデキタ「アルフレッド・スミス」氏カ敗北シタ原因ハ「スミス」氏カ加徒力信者テアツタ爲メテアルトイフ事ハ一般ノ常識テ

「ユダヤ」人ト黒人トノ關係ハ「ユダヤ」人カ彼等ニ詢スル「アングロ・サクソン」ノ反感及差別扱ヲ矯正セントシ、黒人トノ共同戦線ヲ敷カント試ミタルモノテアルカ、最近迄ハ極メテ少少ノ「ユダヤ」系先覺者カ特ニ黒人問題ニ關心ヲ持ツテキタ、程度テアツタ、米國ノ有名ナ通信販賣店ノ成功者「ローゼンバーク」氏ハ「シヤス・ロ

「ユダヤ」人ト黒人トノ關係ハ「ユダヤ」人カ彼等ニ詢スル「アングロ・サクソン」ノ反感及差別扱ヲ矯正セントシ、黒人トノ共同戦線ヲ敷カント試ミタルモノテアルカ、最近迄ハ極メテ少少ノ「ユダヤ」系先覺者カ特ニ黒人問題ニ關心ヲ持ツテキタ、程度テアツタ、米國ノ有名ナ通信販賣店ノ成功者「ローゼンバーク」氏ハ「シヤス・ロ

「ユダヤ」人ト黒人トノ關係ハ「ユダヤ」人カ彼等ニ詢スル「アングロ・サクソン」ノ反感及差別扱ヲ矯正セントシ、黒人トノ共同戦線ヲ敷カント試ミタルモノテアルカ、最近迄ハ極メテ少少ノ「ユダヤ」系先覺者カ特ニ黒人問題ニ關心ヲ持ツテキタ、程度テアツタ、米國ノ有名ナ通信販賣店ノ成功者「ローゼンバーク」氏ハ「シヤス・ロ

「ユダヤ」人ト黒人トノ關係ハ「ユダヤ」人カ彼等ニ詢スル「アングロ・サクソン」ノ反感

